

日本生協連 SDGs 取り組み 中期方針 2020-22



【コープ SDGs 行動宣言】

1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます
2. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します
5. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します
6. 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します
7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

SDGs 取り組み中期方針 2020 - 22 の策定にあたって

■「持続可能な開発目標（SDGs）」とは

2015年9月、国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。SDGsは、未来にわたって地球と社会が望ましいかたちで持続できるよう、2030年までに実現すべき課題を17分野の目標と169のターゲットとして表現したものです。

これらの目標は、貧困・飢餓などの経済的問題や、差別・不平等といった社会問題、そして地球温暖化や生物多様性など環境問題の統合的解決をめざしており、その重要性が理解されるにつれ、国内外でSDGsに対応した取り組みが広まってきました。

■特別アピール「コープSDGs 行動宣言」

そうした中、日本政府は2016年にSDGs実施指針を決定しました。協同組合は同指針に明記されるSDGsの推進主体（ステークホルダー）のひとつであり、生活協同組合がSDGsに貢献する取り組みをより一層強めることが期待されています。

また、SDGsの17分野の目標のベースになっている「誰も取り残さない」という理念は、生活協同組合の理念や活動と重なっていることから、SDGsの主旨に賛同し、SDGsの目標の実現に貢献するために、2018年の第68回日本生協連通常総会にて、「コープSDGs 行動宣言」を16年ぶりの特別アピールとして採択しました。

■SDGs 中期方針 2020-22 の策定にあたって

2020年はSDGsが採択されて5年目の年に入ります。日本生協連はこの間の取り組みが評価され、2018年12月に「第2回ジャパンSDGsアワード」においてSDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞を受賞しました。生協への期待が高まり、更なる役割発揮が求められる中、日本生協連の中期方針と連動させることを目的に、昨年策定した「SDGs 取り組み方針 2019」を深化させ中期的な視点での取り組みを記載した「日本生協連SDGs 取り組み中期方針 2020-22」を策定しました。

中期方針では、国内外のサステナビリティを巡る最新情勢を踏まえ、日本生協連が取り扱う商品については、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」の取り組みを進めていくことを追記しました。あわせて、中期方針の重点課題である「会員生協事業の革新と事業連帯の高度化」を受け、「宅配事業の業態改革（宅配リノベーション）を成功させ、くらしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けます」の方針を追加しました。

中期方針は、WEBサイトに掲示するとともに、生協の環境・サステナビリティに関わる取り組み状況を積極的に公開し、社会との対話を進めていきます。

2020年5月

I. 「日本生協連 SDGs 取り組み中期方針 2020-22」

「コープ SDGs 行動宣言」7つの取り組みに沿って以下の17の具体的な方針を定めました。

コープ SDGs 行動宣言	日本生協連 SDGs 取り組み中期方針 2020-2022
1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます	① 持続可能な生産と消費のために、食料・農業政策づくりを進めます。 ② エシカル消費対応商品の開発と拡大・普及をよりいっそう推し進めます。持続可能な社会の実現に向け、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。 ③ 日本生協連が取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。 ④ 「再生原料」「植物由来原料」を使用した包材への切り替えと減量化を進め、生協事業における容器包装と資材の使用量を削減します。 ⑤ 会員生協とともに、サプライチェーン全体における食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。
2. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します	⑥ 会員生協とともに 2030 年の温室効果ガス削減目標(2030 年に CO ₂ 排出量を 2013 年度比で 40%削減)の実現に向け、気候変動対策を推進します。 ⑦ 会員生協とともに 2030 年の再エネ開発目標実現に向け、再生可能エネルギーの電源開発を推進します。
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します	⑧ 国際機関との連携や商品を中心にした活動を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します。
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します	⑨ 核兵器廃絶、被爆・戦争体験の継承の取り組みを、組合員の平和への思いを大切にしながら、平和な社会をめざす活動を推進します。
5. ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します	⑩ 全国の生協で働く女性が活躍し役割発揮できる職場づくりに向けて、会員生協における女性職員の採用・定着・育成への取り組みをサポートし、女性職員比率や女性幹部比率の向上への支援を進めます。 ⑪ 時間制約がある職員やシニア、障がい者、外国籍、LGBT など、多様な人材が働きがいがあり、働きやすい職場環境づくりを進めます。
6. 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します	⑫ 宅配事業の業態改革(宅配リノベーション)を成功させ、くらしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けます。 ⑬ 多様な人々が暮らしやすい社会をめざして、地域の人々が協力し、支え合う取り組みを進めます。 ⑭ 被災地ならびに被災地生協への復興支援の取り組みを推進します。 ⑮ 災害時に備え、生協と行政や地域の諸団体とのパートナーシップ構築に向けて、支援を進めます。
7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます	⑯ 健康でより豊かなくらしと食生活の向上をめざした取り組みを商品事業と組合員活動で推進します。 ⑰ 持続可能な生協福祉事業に向け、「生協介護サービスの標準化・ブランド化の推進」「全国の事業連帯の検討と高齢者対応事業の研究」を進めます。

II. 詳細

1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

(1) 全国生協の行動宣言

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いを寄せ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

【貢献できる SDGs の目標】	
≪おもな目標≫  12 つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する	≪関連する目標≫     

(2) SDGs 方針取り組み方針 2019 のふりかえり

食料・農業問題検討委員会を設置して、食糧農業問題に関する生協の取り組み課題を検討しました。エシカル消費対応商品の利用拡大に取り組み、前年を超える供給高を達成するとともに、MSC 認証商品や FSC 認証商品の構成比を向上させました。また、「日本生協連海外農産物・海外畜産物調達の考え方」を策定しました。カタログ事業においても「CSR 調達基準書」を策定しました。

プラスチックごみや森林資源の枯渇などに対応するため、再生プラスチック・植物由来プラスチックの使用拡大、段ボールの FSC 認証化などに取り組みました。CO・OP 商品の廃棄削減のため、フードバンク寄贈先の拡大を進めました。商品ロス削減に向けたプロジェクトを立ち上げ、廃棄に至る要因である不良在庫の削減を中心に対策の検討を進めました。

＜方針①＞持続可能な生産と消費のために、食料・農業政策づくりを進めます	
実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> 政府の食料・農業・農村基本計画の改定に対して働きかけを行います。 食料農業問題に関する生活協同組合の取り組み課題をまとめます。 	<ul style="list-style-type: none"> 政府の「食料・農業・農村基本計画」改定への意見書を提出しました。 食料農業問題のとりまとめに向けて、専門委員会の期間を延長し、協議の日程を追加しました。
＜方針②＞エシカル消費対応商品の開発や普及を通じて、組合員のエシカル消費に対する理解と利用拡大を進めます	
実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> エシカル消費対応商品の利用拡大を進めます。 「インドネシア・スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクト (AIP)」に取り組みます。 「洗剤寄付キャンペーン」によって、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農園の持続可能な生産を支援します。 クレジット購入により、RSPO 認証パーム油原料使用商品を拡大します。 エシカル消費の種 (学習ツール) を使い、エシカ 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度もエシカル消費対応商品は大きく伸長しました。牛乳及びチルド飲料の一部など大型商材の取り組みが始まった FSC 認証 (前年比 203%)、再生プラスチック・植物プラスチック化の押し上げ効果があったエコマーク (前年比 142%) などが利用拡大に貢献しました。 2019 年度より「ブラックタイガー養殖業改善協力金」を開始しました。また、第 1 回ジャパン・サステナブルシーフード・アワードのコラボレーション部門チャンピ

<p>ル消費（対応商品）の理解促進を進めます。</p>	<p>オンを受賞しました。 ・RSPO 認証油を B&C クレジットとして毎年購入して対応しました。 ・昨年から引き続き、「エシカル消費の種」ツールを提供し、組合員のエシカル消費への理解を促進しました。</p>				
<p><方針③> プラスチックごみや森林資源の枯渇などの問題へ対応するため、環境に配慮した包材への切り替えを進めるとともに、包材そのものの減量化に取り組みます</p>					
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="172 483 839 521">実施計画</th> <th data-bbox="839 483 1479 521">ふりかえり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="172 521 839 779"> <ul style="list-style-type: none"> ・包材の減量化を推進します。 ・再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材を拡大します。 ・段ボールのFSC 認証化に取り組みます。 ・CO・OP 商品全体に使用する紙(製品・容器包装・段ボール材)を再生原料または FSC 認証へ切替えます。 </td> <td data-bbox="839 521 1479 779"> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック容器の商品 1 個あたり重量が前年比 97.5%になり、総供給個数の伸びと比較しても、容器包装重量の伸びは抑えられました。 ・再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材は、144 品目となりました。段ボールの FSC 認証化は、枚数ベースの年間推計使用量が 42.3%になりました。 </td> </tr> </tbody> </table>	実施計画	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・包材の減量化を推進します。 ・再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材を拡大します。 ・段ボールのFSC 認証化に取り組みます。 ・CO・OP 商品全体に使用する紙(製品・容器包装・段ボール材)を再生原料または FSC 認証へ切替えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック容器の商品 1 個あたり重量が前年比 97.5%になり、総供給個数の伸びと比較しても、容器包装重量の伸びは抑えられました。 ・再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材は、144 品目となりました。段ボールの FSC 認証化は、枚数ベースの年間推計使用量が 42.3%になりました。 	
実施計画	ふりかえり				
<ul style="list-style-type: none"> ・包材の減量化を推進します。 ・再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材を拡大します。 ・段ボールのFSC 認証化に取り組みます。 ・CO・OP 商品全体に使用する紙(製品・容器包装・段ボール材)を再生原料または FSC 認証へ切替えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック容器の商品 1 個あたり重量が前年比 97.5%になり、総供給個数の伸びと比較しても、容器包装重量の伸びは抑えられました。 ・再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材は、144 品目となりました。段ボールの FSC 認証化は、枚数ベースの年間推計使用量が 42.3%になりました。 				
<p><方針④> サプライチェーン全体における食品ロス削減に取り組むとともに、日本生協連として商品廃棄の削減を進めます</p>					
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="172 869 839 907">実施計画</th> <th data-bbox="839 869 1479 907">ふりかえり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="172 907 839 1164"> <ul style="list-style-type: none"> ・CO・OP 商品の廃棄削減の取り組みを強化します。 ・賞味期間 180 日以上ドライ商品 (NB 商品も含む) を対象として、会員生協に入出庫期限の緩和を呼びかけます。 ・CO・OP 商品のうちドライ食品・飲料・菓子を対象に、賞味期間の“年月”表示化を取引先へ呼びかけ、応じて頂いた取引先と協議を開始します。 </td> <td data-bbox="839 907 1479 1164"> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄に至る要因である不良在庫削減を中心とした食品ロス削減に向けてのプロジェクトを組織横断で立ち上げました。 ・農水省・経産省の「納品期限」見直し通知の紹介・共有を行い、会員生協へ緩和を呼びかけました。 ・「食品ロス削減」を目的に、取引先と対応方針を確認しながら、順次切替を進めました。 </td> </tr> </tbody> </table>	実施計画	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・CO・OP 商品の廃棄削減の取り組みを強化します。 ・賞味期間 180 日以上ドライ商品 (NB 商品も含む) を対象として、会員生協に入出庫期限の緩和を呼びかけます。 ・CO・OP 商品のうちドライ食品・飲料・菓子を対象に、賞味期間の“年月”表示化を取引先へ呼びかけ、応じて頂いた取引先と協議を開始します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄に至る要因である不良在庫削減を中心とした食品ロス削減に向けてのプロジェクトを組織横断で立ち上げました。 ・農水省・経産省の「納品期限」見直し通知の紹介・共有を行い、会員生協へ緩和を呼びかけました。 ・「食品ロス削減」を目的に、取引先と対応方針を確認しながら、順次切替を進めました。 	
実施計画	ふりかえり				
<ul style="list-style-type: none"> ・CO・OP 商品の廃棄削減の取り組みを強化します。 ・賞味期間 180 日以上ドライ商品 (NB 商品も含む) を対象として、会員生協に入出庫期限の緩和を呼びかけます。 ・CO・OP 商品のうちドライ食品・飲料・菓子を対象に、賞味期間の“年月”表示化を取引先へ呼びかけ、応じて頂いた取引先と協議を開始します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄に至る要因である不良在庫削減を中心とした食品ロス削減に向けてのプロジェクトを組織横断で立ち上げました。 ・農水省・経産省の「納品期限」見直し通知の紹介・共有を行い、会員生協へ緩和を呼びかけました。 ・「食品ロス削減」を目的に、取引先と対応方針を確認しながら、順次切替を進めました。 				
<p><方針⑤> 調達先ならびに会員生協とともに、安全衛生・品質管理レベルの向上に取り組みます</p>					
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="172 1232 839 1270">実施計画</th> <th data-bbox="839 1232 1479 1270">ふりかえり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="172 1270 839 1397"> <p>製造委託先工場の安全衛生レベルの向上と、日本生協連の工場評価・点検業務の迅速化・効率化を進めます。</p> </td> <td data-bbox="839 1270 1479 1397"> <p>全取引先で、JFS-B 規格を取り入れた新たな点検帳票を実施するための準備を進めました。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	実施計画	ふりかえり	<p>製造委託先工場の安全衛生レベルの向上と、日本生協連の工場評価・点検業務の迅速化・効率化を進めます。</p>	<p>全取引先で、JFS-B 規格を取り入れた新たな点検帳票を実施するための準備を進めました。</p>	
実施計画	ふりかえり				
<p>製造委託先工場の安全衛生レベルの向上と、日本生協連の工場評価・点検業務の迅速化・効率化を進めます。</p>	<p>全取引先で、JFS-B 規格を取り入れた新たな点検帳票を実施するための準備を進めました。</p>				
<p><方針⑥> 取引先とのパートナーシップにより「責任ある調達」を推進します</p>					
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="172 1464 839 1503">実施計画</th> <th data-bbox="839 1464 1479 1503">ふりかえり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="172 1503 839 1630"> <p>カタログ事業においても、工場点検時に特定商品(「声のチカラ」商品とカタログ戦略商品全品)の製造企業における CSR 対応状況の確認を開始します。</p> </td> <td data-bbox="839 1503 1479 1630"> <p>カタログ事業における CSR 調達方針・基準を策定しました。取引先アンケートを実施し、各お取引先の CSR 調達体制状況を把握する準備を進めています。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	実施計画	ふりかえり	<p>カタログ事業においても、工場点検時に特定商品(「声のチカラ」商品とカタログ戦略商品全品)の製造企業における CSR 対応状況の確認を開始します。</p>	<p>カタログ事業における CSR 調達方針・基準を策定しました。取引先アンケートを実施し、各お取引先の CSR 調達体制状況を把握する準備を進めています。</p>	
実施計画	ふりかえり				
<p>カタログ事業においても、工場点検時に特定商品(「声のチカラ」商品とカタログ戦略商品全品)の製造企業における CSR 対応状況の確認を開始します。</p>	<p>カタログ事業における CSR 調達方針・基準を策定しました。取引先アンケートを実施し、各お取引先の CSR 調達体制状況を把握する準備を進めています。</p>				

(3) SDGs 取り組み中期方針 2020-22 と実行計画

中期方針では、エシカル消費対応商品の開発と拡大・普及をよりいっそう推し進めます。持続可能な社会の実現に向け、組合員だけでなく、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。

日本生協連が取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。CO・OP 商品に続きカタログ事業においても、商品の CSR 調達を重点として、製造委託品(衣料品、寝具、家具など)の製造工場における労働者の人権保護、安全衛生などの点検を開始し

ます。お取引先には SDGs（CSR 調達）取り組み状況確認アンケートや、学習会を開催し、サプライチェーン全体での取り組みを啓発します。

食品廃棄物・食品ロスの削減についても、サプライチェーン全体における取り組みを会員生協とともに推進していきます。

<方針①>持続可能な生産と消費のために、食料・農業政策づくりを進めます

実施計画

産直事業をはじめとする生協のこれまでの取り組みをふまえ、今後の課題を整理します。

<方針②>エシカル消費対応商品の開発と拡大・普及をよりいっそう推し進めます。持続可能な社会の実現に向け、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます

実施計画

- ・「海」「森」「プラスチック」を最重点課題として、環境配慮商品のさらなる拡大と利用促進に取り組みます。
- ・水産部門で ASC/MSC 認証をめざす養殖業／漁業改善プロジェクトに取り組みます（インドネシア・スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクト／広島県カキ漁業改善プロジェクト）。
- ・「洗剤寄付キャンペーン」によって、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農園の持続可能な生産を支援します。
- ・RSPO 認証パーム油を原料に使用した商品を拡大します。
- ・エシカル消費の種（学習ツール）を使い、エシカル消費（対応商品）の理解促進を進めます。

<方針③>日本生協連が取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます

実施計画

- ・CO・OP 商品取引先 CSR アンケートを実施し、責任ある調達に関する理解の向上と、自主的な改善を促します。
- ・社会的な公正や持続可能性の観点に立って、生鮮部門の水産物・海外農産物の調達を進めます。
- ・水産物における「責任ある調達」のため、社会的なトレーサビリティの仕組みづくりと参画をめざし、調査とパートナーシップ(協力関係)の形成を進めます。
- ・持続可能な農業を担保する管理ツールとして、G F S I 認証スキームのG A P（適正農業規範）の取り組みを支援し、「食品安全」「労働安全」「環境保全」の取り組みを推進します。
- ・通販事業では、商品の CSR 調達を重点として、製造委託品（衣料品、寝具、家具など）の製造工場における労働者の人権保護、安全衛生などの点検を開始します。また、お取引先には SDGs（CSR 調達）取り組み状況確認アンケートや学習会を実施し、サプライチェーン全体での取り組みを啓発します。あわせて、希少性天然素材のリサイクルの観点から、実験的にダウンリサイクル券付き羽毛布団商品の企画を実施します。

<方針④>「再生原料」「植物由来原料」を使用した包材への切り替えと減量化を進め、生協事業における容器包装と資材の使用量を削減します

実施計画

包材の減量化に取り組むとともに、再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材を拡大します。段ボールや CO・OP 商品全体に使用する紙を、再生原料または FSC 認証へ切替えます。

<方針⑤>会員生協とともに、サプライチェーン全体における食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます





実施計画

- ・ロス削減の取り組みを前進させ、CO・OP 商品の廃棄削減を強化します。
- ・賞味期間 180 日以上ドライ商品（NB 商品も含む）を対象として、会員生協に入出庫期限 1/2 までの緩和を呼びかけます。
- ・CO・OP 商品のうちドライ食品・飲料・菓子を対象に、業界動向に配慮しながら、賞味期間の“年月”表示化の意向を持つ取引先と順次切替を進めます。

2. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

(1) 全国生協の行動宣言

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標（2030年環境目標）を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

【貢献できるSDGsの目標】	
≪おもな目標≫ 	≪関連する目標≫ 
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	13 気候変動に 具体的な対策を 
すべての人々の、安価かつ信頼できる 持続可能な近代的エネルギーへのア クセスを確保する。	

(2) SDGs 方針取り組み方針 2019 のふりかえり

日本生協連グループの「2020年温室効果ガス削減計画」に基づき、2020年までの温室効果ガス削減計画を着実に実行（基準年比 85.6%）するとともに、2030年に向けた削減計画の補強にも着手しました。会員生協が2030削減計画を策定できるよう、情報提供などの支援を行いました。再エネ開発目標の実現に向け、再エネ開発研究会にて開発ロードマップを検討しました。日本生協連においても、太陽光発電設備の設置が可能な所有施設の調査・検討を進めました。

<方針⑦>「2030環境目標」にコミットし、2030年を視野に入れた温室効果ガス削減の取り組みを推進するとともに、会員生協の2030年に向けた削減計画の策定支援を行います

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> 日本生協連グループの「2020年温室効果ガス削減計画」に基づき温暖化対策を推進します。 日本生協連グループとして、再生可能エネルギーの利用を拡大します。 会員生協における「2030年温室効果ガス削減計画」の策定支援を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー使用構成比の高い空調設備に対し、削減対策を実施したこと、ならびに低炭素電力（地球クラブ）への切り替えにより大幅削減ができました。 ㈱地球クラブ¹へ電力を切り替えたことにより、再生可能エネルギーの利用率が向上しました。 会員生協に対して全国の生協の計画策定状況を都度公表し、未策定の生協へ策定を促すとともに必要な情報提供支援を行いました。

<方針⑧>2030年の再エネ開発目標実現に向け、再生可能エネルギーの電源開発を推進します

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> 日本生協連の物流施設を利用した太陽光発電を継続します。 「再エネ開発研究会」にて、再エネ開発の具体策を検討するとともに、日本生協連としての2030年に向けた「再エネ開発ロードマップ」を作成します。 	<ul style="list-style-type: none"> 気象条件により日射量不足となり、発電量が大幅に目標を下回りました。 「再エネ開発研究会」のなかで学習企画と視察企画を実施する等、ロードマップ策定支援ツールを提供することを通じて、会員生協の「再エネ開発ロードマップ」の作成を支援しました。 日本生協連では、2030年までに26MWとする「再エネ開発ロードマップ」をとりまとめました。

¹ ㈱地球クラブ：日本生協連が再生可能エネルギーの普及促進を目的として設立した新電力会社。

(3) SDGs 取り組み中期方針 2020-22 と実行計画

会員生協とともに 2030 年の温室効果ガス削減目標（2030 年に CO₂排出量を 2013 年度比で 40%削減）の実現に向け、気候変動対策を推進します。その具体化を進めるために、会員生協における「2030 年に向けた温室効果ガス削減計画」の策定支援を行います。日本生協連グループでは、「温室効果ガス削減計画」の実行計画に基づき、各年度の削減目標を策定します。

2030 年の再エネ開発目標（2030 年度に 300MW）実現に向け、再生可能エネルギーの電源開発を推進し、日本生協連グループとして再生可能エネルギーの導入を進めます。

<方針⑥> 会員生協とともに 2030 年の温室効果ガス削減目標(2030 年に CO₂排出量を 2013 年度比で 40%削減)の実現に向け、気候変動対策を推進します
--

実施計画

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・日本生協連グループの「2020 年温室効果ガス削減計画」に基づき気候変動対策を推進します。・日本生協連グループの「2030 年温室効果ガス削減計画」について、実行計画と各年度の削減目標を策定します。・日本生協連グループとして、再生可能エネルギーの導入を進めます。・会員生協における「2030 年に向けた温室効果ガス削減計画」の策定支援を行います。 |
|---|

<方針⑦> 会員生協とともに 2030 年の再エネ開発目標の実現に向け、再生可能エネルギーの電源開発を推進します

実施計画

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・日本生協連グループの再エネ開発目標（2030 年度に 26MW）の実現に向け、物流施設を利用した太陽光発電を拡大します。・「再エネ開発実践研究会」等を通じて、全国生協の再生可能エネルギー開発を支援します。 |
|--|

3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

(1) 全国生協の行動宣言

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

【貢献できる SDGs の目標】	
《おもな目標》 	《関連する目標》    
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。	

(2) SDGs 方針取り組み方針 2019 のふりかえり

「CO・OP×レッドカップキャンペーン」や「コアノンスマイルスクールプロジェクト」など、商品の供給を通じた途上国支援を行いました。また、ユニセフ活動交流会を開催し、全国の生協の、特に健康や教育分野への募金を通じた取り組みを支援しました。

＜方針⑨＞国際機関との連携や寄付金付商品等の展開を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します	
実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> ・「レッドカップキャンペーン」を通じて、カンボジアのこどもたちの学校給食支援を進めます。 ・「スマイルスクールプロジェクト」によって、アンゴラの学校づくりと安全な水、衛生環境の提供支援を進めます。 ・ユニセフリーダーセミナーやスタディツアーなどを通じてユニセフへの理解促進に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「レッドカップキャンペーン」は、全国で活発に取り組みられ、コープヌードルの好調、新規対象品配置効果もあり、大幅超過達成となりました。 ・「スマイルスクールプロジェクト」は、店舗のご利用者から多くの賛同を得て、目標を超過達成しました。 ・ユニセフ活動交流会のほか、各地連が主催する交流会や連絡会の場で、生協間の交流やユニセフ活動の学習を行いました。

(3) SDGs 取り組み中期方針 2020-22 と実行計画

国際機関との連携や商品を中心にした活動を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します。

＜方針⑩＞国際機関との連携や商品を中心にした活動を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します
実施計画
<ul style="list-style-type: none"> ・「レッドカップキャンペーン」を通じて、ミャンマーのこどもたちの学校給食支援を進めます。 ・「スマイルスクールプロジェクト」によって、アンゴラの学校づくりと安全な水・衛生環境の提供支援を進めます。 ・ユニセフ活動交流会やスタディツアーなどを通じてユニセフへの理解促進に取り組みます。

4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

(1) 全国生協の行動宣言

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。

私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。

【貢献できる SDGs の目標】

《おもな目標》



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

《関連する目標》



(2) SDGs 方針取り組み方針 2019 のふりかえり

被爆・戦争体験の継承の取り組みを推進し、「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」および「沖縄戦跡基地めぐり」を実施しました。また、核兵器廃絶の取り組みとして、「ヒバクシャ国際署名」に取り組み、約 267 万人の署名が集まりました。NPT 再検討会議に向けた取り組みを進めました。

<方針⑩>核兵器廃絶、被爆・戦争体験の継承の取り組みなど、平和な社会をめざす活動を推進します

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒバクシャ国際署名に引き続き取り組みます。 ・会員生協の平和活動の支援（ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ、沖縄戦跡基地めぐり等）を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPT 再検討会議の取り組みと合わせてヒバクシャ国際署名の呼びかけを引き続き行いました。「核兵器禁止条約の早期締結を求める署名」の約 8 万 8 千人を含めると、約 267 万人の署名が集まりました。 ・ピースアクション in ヒロシマ、ナガサキの取り組みを行い、広く核兵器廃絶の理解を広げることができました。沖縄地上戦や基地問題について考える「沖縄戦跡基地めぐり」を開催しました。次世代への継承を目的に、今回初めて子どものみが参加する分科会を実施しました。

(3) SDGs 取り組み中期方針 2020-22 と実行計画

「ヒバクシャ国際署名」は終了しましたが、組合員の平和への思いを大切にしながら、引き続き、核兵器廃絶、被爆・戦争体験の継承の取り組みを進めていきます。

<方針⑨>核兵器廃絶、被爆・戦争体験の継承の取り組みを、組合員の平和への思いを大切にしながら、平和な社会をめざす活動を推進します

実施計画
会員生協の平和活動の支援（ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ、沖縄戦跡基地めぐり等）を進めます。

5. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

（1）全国生協の行動宣言

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。

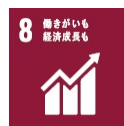
【貢献できる SDGs の目標】

《おもな目標》



ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

《関連する目標》



（2）SDGs 方針取り組み方針 2019 のふりかえり

全国生協の女性職員、女性幹部を対象にした交流会を開催しました。日本生協連においては、メンター制度、幹部ライセンス試験への動機づけなどに取り組みました。また、障がい者について、採用を拡大して配属部署を広げました。業務の進め方や働き方の変革を目的に、ワークスタイル変革委員会を設置して、課題の抽出に組織全体で取り組みました。

<方針⑪> 全国の生協で働く女性が活躍し、役割発揮できる職場づくりを支援します

実施計画	ふりかえり
全国生協の女性職員、女性幹部を対象にした交流会を実施します。	全国生協の女性職員、女性幹部を対象にした交流会を実施しました。女性活躍推進についての講義、他企業の女性役員を招いての講演、メンタルヘルスケア、ラインケアに関する研修を行いました。あわせて、先輩職員によるパネルディスカッションやグループワークを通じて、仕事をする上での悩みや思いを交流することができました。

<方針⑫> 日本生協連で働く女性職員をはじめ様々な世代・雇用形態の職員が、健康に働き、能力発揮できる職場づくりを推進します

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> ・日本生協連で働く女性職員をはじめ様々な世代・雇用形態の職員が、健康に働き、能力発揮できる職場づくりを推進します。 ・障がい者雇用拡大のための条件整備を研究します。 ・時間外労働を削減します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成のサポートとして、育休明け職員と上司との面談の推進や、メンター制度の実施、育休明け職員の両立セミナーへの派遣、他社女性社員との学習交流会、先輩職員とキャリアを語る会の実施をしました。 ・障がい者の採用を拡大して配属部署を広げました。 ・2019年度下期から、ワークスタイル変革委員会を立ち上げ、ワークスタイル（＝業務の進め方や働き方）を変革し、仕事の総量を減少させる取り組みを開始しました。

(3) SDGs 取り組み中期方針 2020-22 と実行計画

引き続き、全国の生協で働く女性が活躍し役割発揮できる職場づくりに向けて、会員生協における女性職員の採用・定着・育成への取り組みをサポートし、女性職員比率や女性幹部比率の向上への支援を進めます。

日本生協連においては、時間制約がある職員やシニア、障がい者、外国籍、LGBT など、多様な人材が働きがいがあり、働きやすい職場環境づくりを進めます。

<方針⑩>全国の生協で働く女性が活躍し役割発揮できる職場づくりに向けて、会員生協における女性職員の採用・定着・育成への取り組みをサポートし、女性職員比率や女性幹部比率の向上への支援を進めます
--

実施計画

- | |
|---|
| ・全国生協の女性職員、および女性リーダー・管理職層を対象にした交流会を実施します。 |
|---|

<方針⑪>時間制約がある職員やシニア、障がい者、外国籍、LGBT など、多様な人材が働きがいがあり、働きやすい職場環境づくりを進めます
--

実施計画

- | |
|---|
| ・女性活躍推進を目的に、キャリア継続をサポートする施策を検討・実施します。 |
| ・障がい者雇用拡大、LGBT など、多様な人材が活躍できるための条件整備を研究します。 |

6. 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

(1) 全国生協の行動宣言

私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。

【貢献できる SDGs の目標】

《おもな目標》



包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

《関連する目標》



(2) SDGs 方針取り組み方針 2019 のふりかえり

会員生協のキャラバンメイト(認知症サポーター講座の講師)の活動促進に取り組み、生協職員の認知症サポーターを 3,000 人以上に拡大しました。また、「子どもの未来アクション」の活動推進のため、講習会や交流サイトの開設などを実施しました。埼玉県など行政と協働して、生協以外の団体との連携も進めました。

被災地生協の「くらし・地域復興応援募金」を全国の生協に呼びかけました。また、「災害・復興支援交流会」を開催し、東日本大震災や台風 19 号の復興支援活動について交流しました。台風 19 号被害緊急支援募金口座を開設し、全国生協に支援を呼びかけました。

<方針⑬>子どもや高齢者、障がい者など様々な人々が暮らしやすい地域社会を目指して、諸団体と連携した取り組みを進めます

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> ・生協職員内の認知症サポーターを拡大します。 ・諸団体と連携して「子どもの未来アクション」の活動を推進します。 ・応援食クッキーでの寄付を通じて、「障害者ノルディックスキー日本チーム」を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員生協のキャラバンメイト(サポーター講座の講師役)の活動促進を図り、サポーター講座増加につなげました。 ・子どもの未来アクションのアンバサダー講習会を全国5か所で開催し、活動のお知らせを強め、行政との協働事例が生まれました。 ・応援食クッキーの利用を通じて「障害者ノルディックスキー日本チーム」の支援を行いました。

<方針⑭>被災地ならびに被災地生協への復興支援の取り組みを推進します

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> ・「くらし・地域復興応援募金」の呼びかけや、災害・復興支援交流会を開催します。 ・「すくすく応援団」企画にて「福島子ども子育て応援募金」を実施します。 ・「放射性物質摂取量調査」の実施を継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の生協に「くらし・地域復興応援募金」を呼びかけ、岩手、宮城、福島で募金受付を行いました。 ・「福島子ども子育て応援募金」の最終年として、「すくすく応援団」企画から、福島の子ども子育て支援を行っている団体に助成を行い、活動に貢献しました。 ・東京電力福島第一原子力発電所の事故以来、「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」を継続して実施しています。2019 年度に調査したサンプルでは検出限界以上の放射性セシウムは検出されませんでした。

<方針⑮> 災害に強い地域・組織づくりに取り組みます

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> 行政、NPO等との連携・協働を深化させるため、会員生協へ「災害時における行政・NPO・ボランティア等との連携・協働に向けた研修会」への参加を働きかけます。 地震だけでなく、台風・豪雨などの災害時の事業継続の課題にも対応するため、「日本生協連災害対策マニュアル」を改定します。 	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度は、内閣府主催の「災害時における行政・社協・NPO等との連携・協働に向けた研修会が開催され、すべての県において生協関係者の参加が実現しました。 「日本生協連災害対策マニュアル」の改定は未了ですが、ベースとなる「全国生協BCP（全国生協大規模災害連携計画）」の改定を実施し、これまでの地震災害対応に加えて、新たに台風・豪雨等の災害（進行型災害）に対する日本生協連と会員生協の対応課題について補強・改定を行いました。

(3) SDGs 取り組み中期方針 2020-22 と実行計画

引き続き、多様な人々が暮らしやすい社会をめざして、地域の人々が協力し、支え合う取り組みを進めます。その中で、日本生協連の中期方針の柱である「宅配事業の業態改革（宅配リノベーション）」を成功させ、生協の中核事業である宅配事業が、くらしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けられるようにします。

被災地ならびに被災地生協への復興支援の取り組みを継続し、災害時に備え、生協と行政や地域の諸団体とのパートナーシップ構築に向けて、支援を進めます。

<方針⑫> 宅配事業の業態改革（宅配リノベーション）を成功させ、くらしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けます

実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 宅配事業のリノベーションを通じて「コスト増に打ち克つ経営構造づくり」を進めます。 宅配事業のリノベーションを通じて「多様な世帯に選ばれる価値の創造」を実現します。 宅配事業のリノベーションを通じて「事業連帯の高度化」を実現します。

<方針⑬> 多様な人々が暮らしやすい社会をめざして、地域の人々が協力し、支え合う取り組みを進めます

実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 生協が関わる共生社会づくりの先進事例を把握し、発信します。 諸団体と連携して「子どもの未来アクション」の活動を推進します。 応援食クッキーでの寄付を通じて、「障害者ノルディックスキー日本チーム」を支援します。

<方針⑭> 被災地ならびに被災地生協への復興支援の取り組みを推進します

実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 「すくすく応援団」カタログ供給金額の1%を活動資金として助成し、全国的な取り組みとなっている「子どもの未来アクション活動」の支援を行います。学習活動の次のステップとして、実際のアクション（活動）をおこなう際に必要な費用の助成を実施します。 「放射性物質摂取量調査」を2020年度まで継続し、調査10年間の総括を実施します。

<方針⑮> 災害時に備え、生協と行政や地域の諸団体とのパートナーシップ構築に向けて、支援を進めます

実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 行政、NPO等との連携・協働を深化させるため、会員生協へ「災害時における行政・NPO・ボランティア等との連携・協働に向けた研修会」への参加を働きかけます。 地震だけでなく、台風・豪雨などの災害時の事業継続の課題にも対応します。

7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

(1) 全国生協の行動宣言

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。

【貢献できる SDGs の目標】

《おもな目標》



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

《関連する目標》



(2) SDGs 方針取り組み方針 2019 のふりかえり

- ・「ヘルシーコープ」のレシピ開発や「私の健康、食習慣チェック活動」(BDHQ)の取り組みを拡大し、組合員の食生活見直しへの働きかけを進めました。
- ・ピンクリボン運動に協賛し、商品の供給を通じて寄付を行いました。
- ・生協の介護サービスの標準化と質の向上のため、「生協10の基本ケア」への参加生協の拡大を進めました。また、生協福祉事業の中長期戦略の検討を進めました。

<方針⑯> 組合員の食生活見直しをサポートできる取り組みを進めます

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> ・「ヘルシーコープ」のレシピ開発と売り場提案を推進します。 ・「私の健康、食習慣チェック活動」(BDHQ)の取り組み生協の拡大を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヘルシーコープ」は、96 レシピを作成しました。 ・「私の健康、食習慣チェック活動」では、「お試しID」の発行等、会員生協が体験できるような取り組みへの呼び掛けを行いました。あわせて、学習会で活用できるよう脂質に関する学習資料を作成しました。

<方針⑰> ピンクリボン運動を応援し、乳がんに対する啓蒙と患者や家族の支援を進めます

実施計画	ふりかえり
<p>コープ化粧品と「くらしと生協」での商品展開を通じて、日本乳がんピンクリボン運動への寄付を実施します。</p>	<p>CO・OP 化粧品からは、135 万円、くらしと生協からは、26 万円の寄付が寄せられました。くらしと生協では、ブラジャー1点購入ごとに1円の寄付を行いました。</p>

<方針⑩> 持続可能な生協福祉事業に向け、生協介護のブランド・標準化と、生協福祉事業中長期戦略を検討します

実施計画	ふりかえり
<ul style="list-style-type: none"> ・「生協10の基本ケア」の導入拡大と定着を進めます。 ・生協福祉事業の中長期戦略の検討を進めます。 ・会員生協の事業モデルの転換と(地域密着型サービスと24時間型サービス等)既存事業の立て直しを支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生協10の基本ケア」講座を4法人5回開催し、新規参加生協が広がっています。 ・今後の福祉事業戦略と協同事業の在り方について、福祉事業中長期戦略検討委員会で検討を重ね、「最終報告」を取りまとめました。 ・会員生協トップに対する経営戦略セミナーを開催し、地域密着型サービスへのチャレンジを呼びかけました。

(3) SDGs 取り組み中期方針 2020-22 と実行計画

「ヘルシーコープ」の展開や「私の健康、食習慣チェック活動」(BDHQ)の推進を通じて、健康でより豊かなくらしと食生活の向上をめざした取り組みを商品事業と組合員活動で推進します。

引き続き「生協10の基本ケア講座」の導入拡大を進め、持続可能な生協福祉事業に向け、「生協介護サービスの標準化・ブランド化の推進」「全国の事業連帯の検討と高齢者対応事業の研究」を進めます。

<方針⑯>健康でより豊かなくらしと食生活の向上を目指した取り組みを、商品事業と組合員活動で推進します
実施計画
<ul style="list-style-type: none">・「ヘルシーコープ」の取り組みとして、「手軽にとれる」「おいしく減らす」マーク付き商品の開発を進め、レシピ開発や売り場提案にも継続して取り組みます。・「私の健康、食習慣チェック活動」(BDHQ)の取り組み生協の拡大を図ります。・「おしゃべりの種セット」を通じた商品活動を支援します。・コープ化粧品と「くらしと生協」での商品展開を通じて、日本乳がんピンクリボン運動への寄付を実施します。
<方針⑰>持続可能な生協福祉事業に向け、「生協介護サービスの標準化・ブランド化の推進」「全国の事業連帯の検討と高齢者等対応事業の研究」を進めます
実施計画
<ul style="list-style-type: none">・「生協10の基本ケア」の取り組み拡大をはかります。・福祉介護事業・事業連帯の在り方PJを推進します。高齢者等対応事業の調査研究をすすめます。

【参考】SDGsの17の目標

17の目標	目標の内容
	目標1(貧困をなくそう) あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
	目標2(飢餓をゼロに) 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
	目標3(保健) あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
	目標4(教育) すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
	目標5(ジェンダー) ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
	目標6(水・衛生) すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
	目標7(エネルギー) すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
	目標8(経済成長と雇用)包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。
	目標9(インフラ、産業化、イノベーション) 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
	目標10(不平等をなくそう) 各国内及び各国間の不平等を是正する。
	目標11(持続可能な都市) 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
	目標12(つくる責任、つかう責任) 持続可能な生産消費形態を確保する。
	目標13(気候変動) 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
	目標14(海洋資源) 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
	目標15(陸上資源) 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
	目標16(平和) 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
	目標17(実施手段) 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。